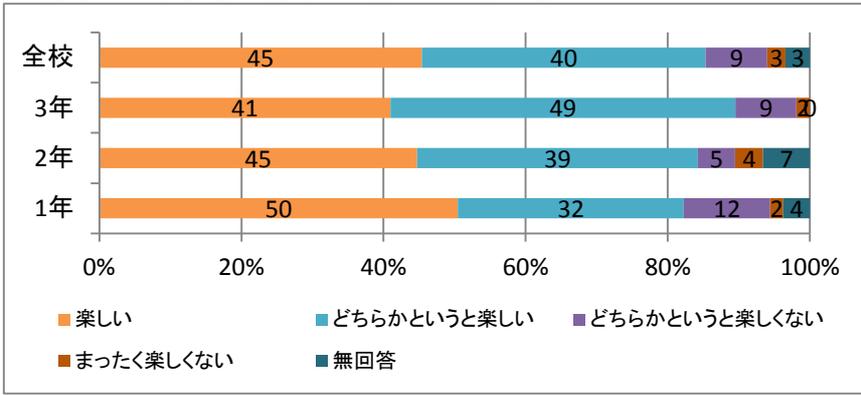
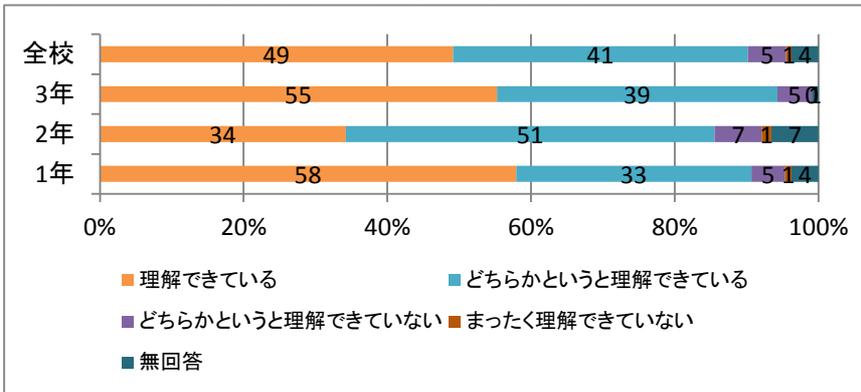


1. あなたは、学校に行くのが楽しいですか。



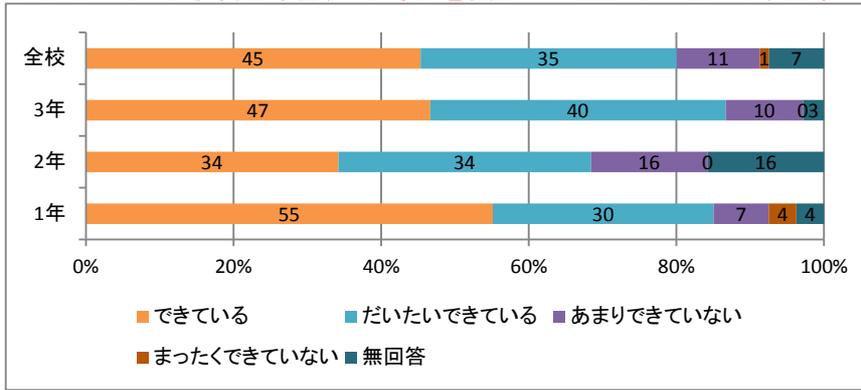
・いずれの学年も学校が楽しいと肯定的にとらえている生徒が80%を超えており、全校で85%いることは大変好ましい結果である。
 ・一方、「まったく楽しくない」が全体で3%、「どちらかという楽しくない」が9%で、36~37人の生徒が否定的な回答をしている。
 ・全校生徒が一人残らず、喜んで登校できる学校にするためには、どうしなければならないかが今後の課題である。

2. グループの学習はよく理解できていますか。



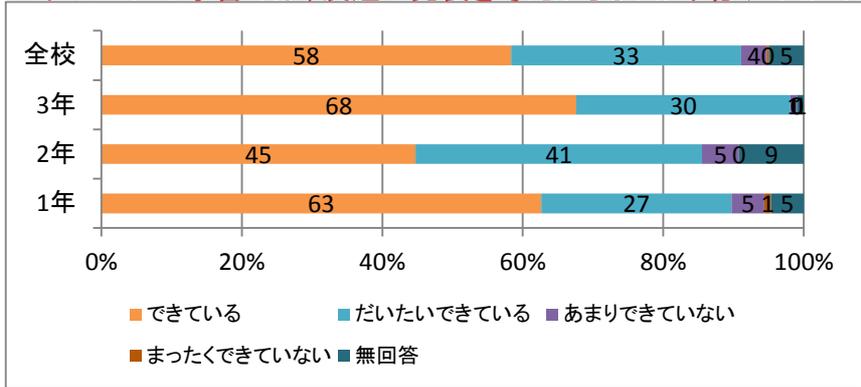
・コロナ禍の中、少ない回数ではあるが、グループの学習が理解できていると肯定的にとらえている生徒が全校で90%にのぼり、「学び合いのある授業」が確実に定着していると思われる。
 ・一方、理解できていないと、否定的な回答が全校で6%である。
 ・さらに、生徒どうしの「学び合い、聴き合う関係」の育成と学力向上に向けた取組の推進が求められる。

3. グループの学習は、自分の考えを伝えることができますか。



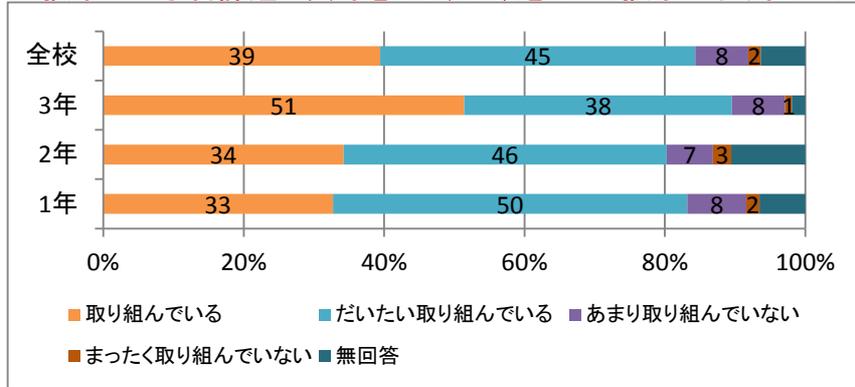
・自分の考えを伝えることができると肯定的にとらえている生徒が全校で80%である。
 ・一方、否定的な回答が12%であり、それは、本校の36~37人となる。
 ・自分の考えを述べる力を高めていくには、主体的・対話的で深い学びのある授業、本校で行っている「学び合いのある授業」の推進が必要不可欠である。

4. グループの学習では、友達の発表を考えからしっかり聴くことができますか。



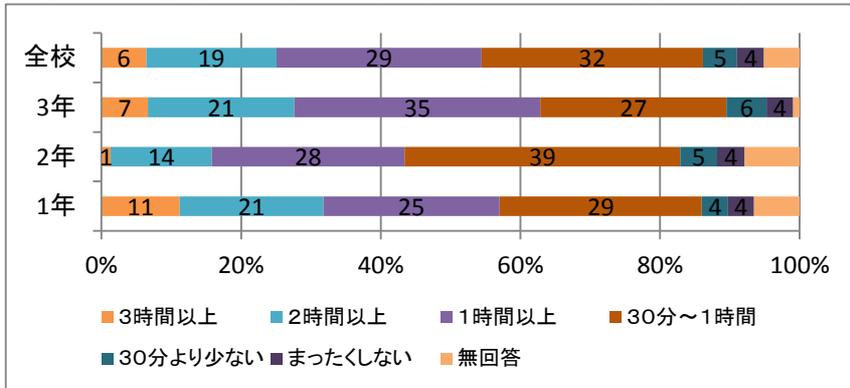
・肯定的な回答が全校で91%、いずれの学年も90%前後の生徒が、友達の発表を聴く姿勢を身に付けており、学び合いの授業が生かされていると思われる。
 ・聴く姿勢と学力の向上は、高い相関関係にあり、聴く姿勢が身に付いている生徒は、学習効果が期待できると思われる。
 ・他者の発言をしっかり聴くことにより、自分の考えが深まり、広がっていくことを理解させたい。

5. 授業での学習課題に興味をもち、意欲をもって授業に取り組んでいますか。



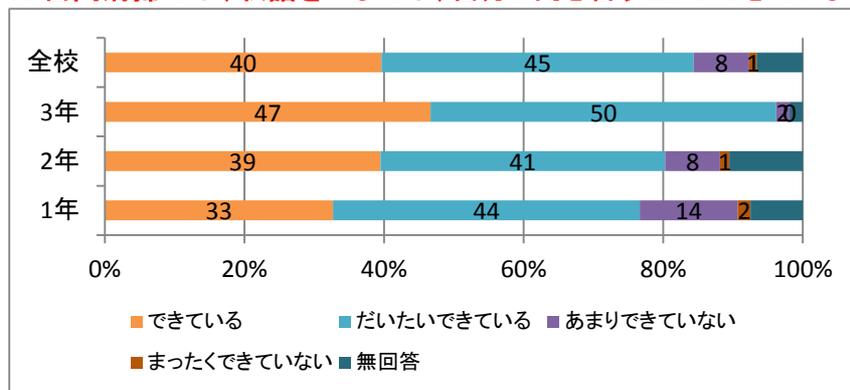
・いずれの学年も80%を超える生徒が興味や意欲をもって授業に取り組んでいる。
 ・一方、否定的な回答の生徒が全校で10%である。学力の向上は、授業での積極的な取組と直結するため、約30人の生徒には学習に取り組む姿勢を見直し改善することが求められる。
 ・また、授業づくりにおいて、消極的な生徒が少しでも意欲的に取り組むよう工夫・改善が必要である。

6. 普段(月～金曜日)家庭で、自分から机について取り組む1日当たりの勉強時間はどれくらいですか。



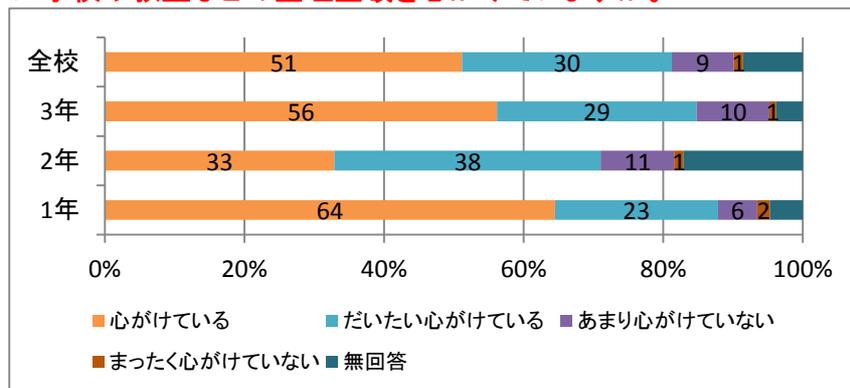
・1日の家庭学習時間は、全校で30分～1時間が最も多く、全校の半数近くが1時間未満であり、やはり中学生としては家庭での学習時間が不足していると言わざるを得ない。
 ・携帯やスマホ、ゲーム等にかかる時間等、家庭生活を見直し、家庭学習時間の確保が重要な課題である。小学校、家庭との連携強化が求められる。

7. 自問清掃では、私語をがまんし、自分と向き合うことができますか。



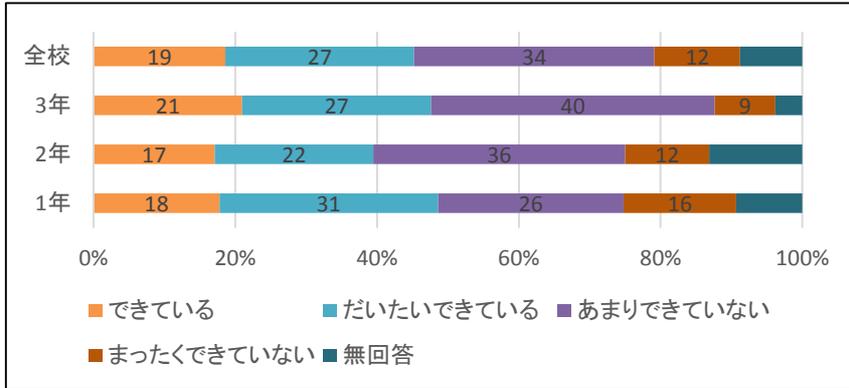
・全校の85%の生徒が自問清掃ができていると回答しており、学年を問わず、自問清掃がしっかりと定着している。特に3年生の97%はすばらしい値である。
 ・自問清掃の意識や取組が年々高まっており、本校の学校教育目標の一つである心みがきに一層取り組んでほしいと強く願う。

8. 学校や教室などの整理整頓を心がけていますか。



・2学年の「心がけている」との回答が他学年と比べて低くなっているが、全校では81%の生徒が整理整頓を心がけており、整理整頓ができた美しい学校を維持している。
 ・自問清掃の精神が、環境美化につながっており、美しい環境づくりが生徒の健全な成長に多大なる影響を与えている。今後も、環境衛生に細心の注意を払い、美しい学校づくりを推進していきたい。

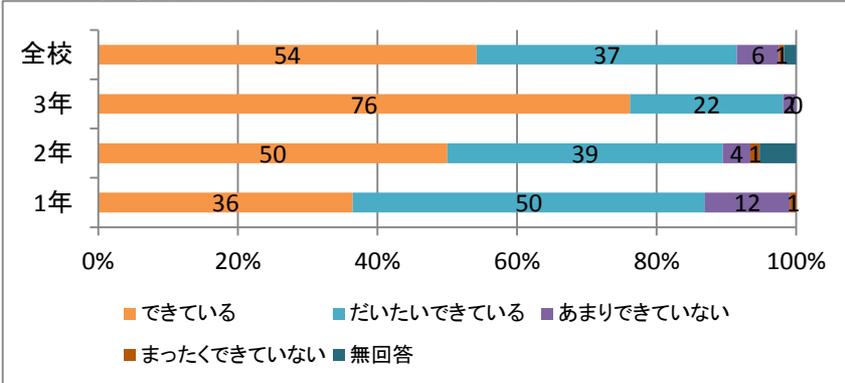
9. 自分から進んで地域の行事やボランティア活動に参加していますか。



・自分から進んでボランティア活動に参加している生徒が、「だいたいできている」を含め46%である。活動の機会を増やすなど、本校の誇りとして、ボランティア活動を、さらに推進していかなければならない。

・校内ボランティアも実施しており、校内で培った自問清掃やボランティア活動を校外でも生かし、地域に貢献する生徒に育ってくれることを期待する。

10. 2分前着席、1分間黙想ができていますか。

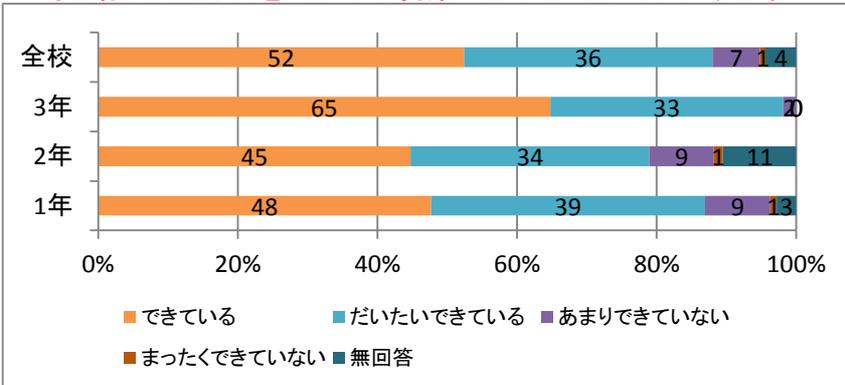


・いずれの学年もほぼ90%の生徒ができており、小中一貫教育の成果が表れている。特に、3年生の高い意識は全校に前向きな影響を与えている。

・小学校においても、学年の発達段階によって黙想を行うようになり、落ち着いた授業づくりに寄与している。

・委員の呼びかけがなくても、自ら進んで着席や黙想を行い、休憩時間と授業時間の切り替えが常時円滑になされるように意識してほしい。

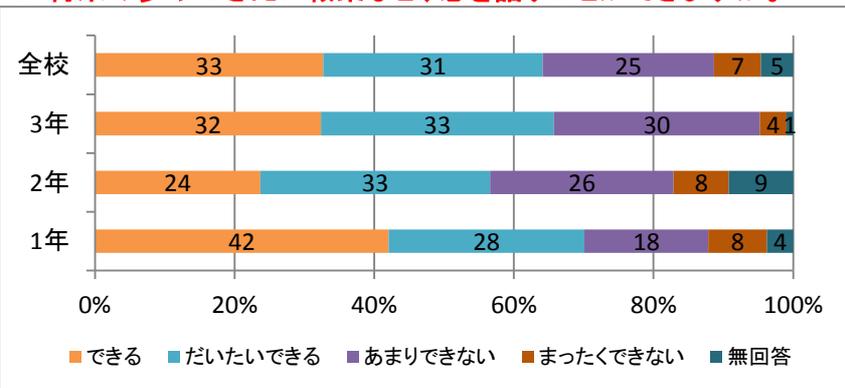
11. 時と場に応じた人を思いやる言葉づかいができていますか。



・全校では88%の生徒ができており、3年生は98%に達している。全学年で100%を目指し、いじめの根絶に向けて取り組んでほしい。

・、不用意な発言がないか、日常の会話にこそ注意を払いたい。そして、温かい言葉かけにより、好ましい人間関係を築いてほしい。

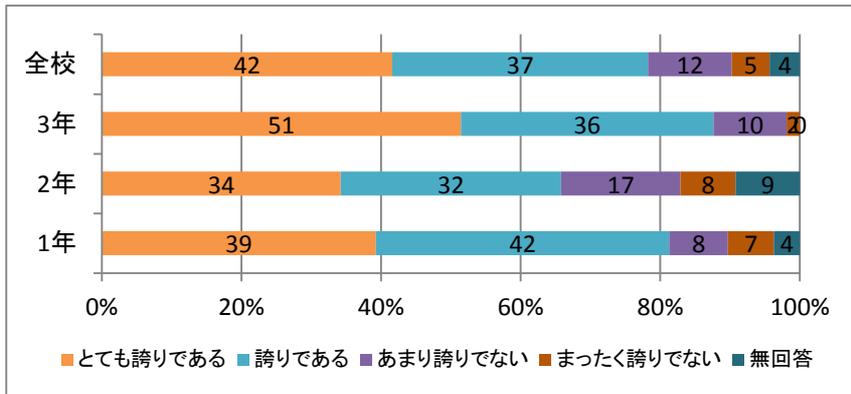
12. 将来の夢やつきたい職業など、志を話すことができますか。



・全校では64%の生徒が志を話すことができるとしている。キャリア教育の更なる充実により、生きる力の伸張に期待する。

・「あまりできていない」「まったくできていない」と回答している32%の生徒が上位に改善していくためにも、職場体験や立志式はもとより、入学時から将来に夢や希望をもって進路を選択できるよう、全教育活動を通じて支援していく必要がある。

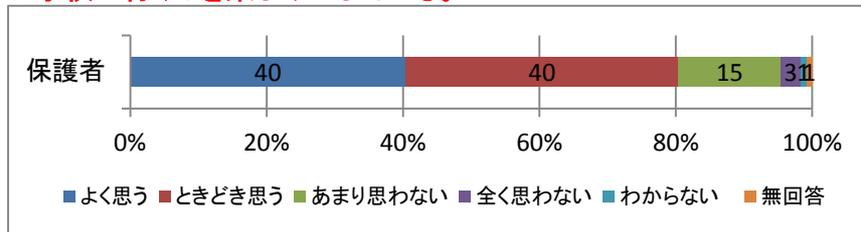
13. あなた桃山中に誇りをもっていますか。



・全校で79%の生徒が桃山中に誇りをもっているとしている。
 ・3年生は肯定的な回答が80%を超えているが、2年生がやや低調で否定的な回答も25%である。最上級生となる来年度に向けて、自信と誇りが高まるよう、指導・支援を進める必要がある。
 ・校内におけるハッピーライフ運動、校外におけるハッピー桃太郎運動を中心とし、生徒会が主体となって我が校及び我が地域に誇りをもてる取組を着実に増やしていきたい。そして、地域ととともにある学校を目指していきたい。

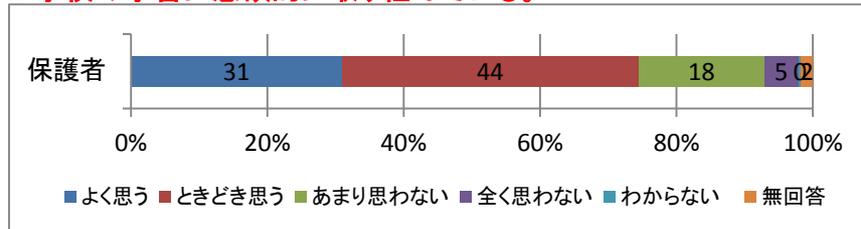
令和2年度1学期学校評価（保護者）集計結果 宇部市立桃山中学校

1. 学校に行くのを楽しみにしている。



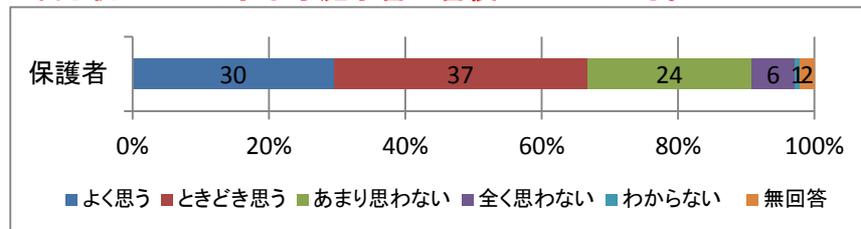
・80%の保護者が肯定的な回答をしており、生徒アンケートでも生徒の85%が肯定的な回答をしていることから、多くの生徒が学校を楽しみにしていると思われる。
 ・一方、18%の保護者と12%の生徒が否定的な回答をしており、さらなる魅力ある学校づくりを進めなければならない。

2. 学校の学習に意欲的に取り組んでいる。



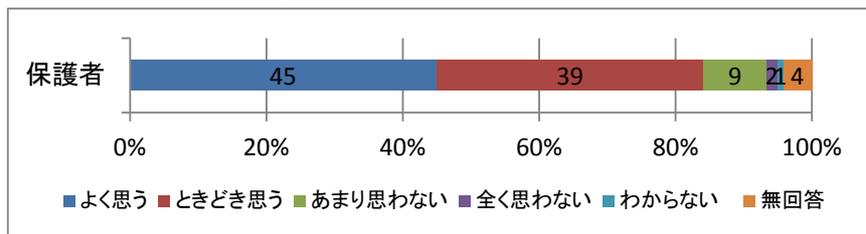
・75%の保護者が、生徒は意欲的に取り組んでいると感じているものの、23%の保護者が学習意欲にもの足りなさを感じており、意欲的でないと思っている生徒の10%を大きく上回っている。
 ・学習の定着度や成績も含めて、もっと意欲的に取り組んでほしいという保護者の思いが推察される。

3. 自ら机について学ぶ家庭学習の習慣がついている。



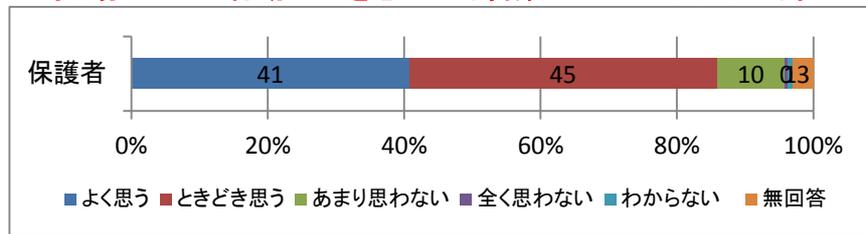
・「よく思う」が30%にとどまっている。また、生徒アンケートで、家庭学習の時間が2時間以上とする生徒の割合も25%で、ほぼ同じ割合である。
 ・1時間未満の生徒が41%となっており、本校生徒にとって家庭学習習慣の確立は、学力向上達成のための最重要課題である。

4. 規律ある学校生活を送っている。



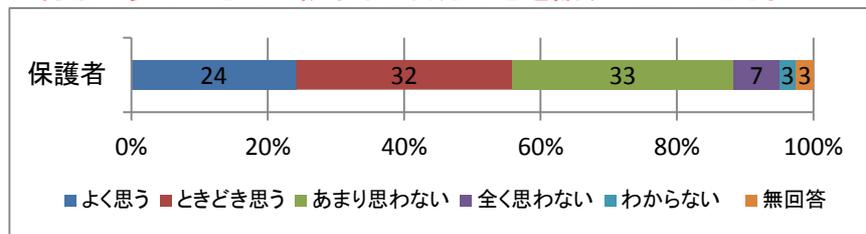
・規律ある生活を送っていると肯定的な回答をした保護者が、84%で、大半の保護者が、学校全体の規律が維持され、生徒が落ち着いた生活を送っているととらえており、学校の教育活動のとても大きな成果と思われる。しかしながら、否定的な回答が11%あり、家庭との連携を密にして、個別の支援が必要である。

5. 時と場に応じた行動や人を思いやる言葉づかいができています。



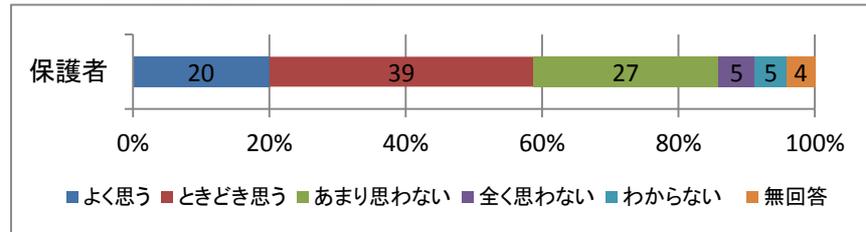
・86%の保護者が肯定的にとらえており、生徒アンケートでも88%が肯定的な回答をしている。ほとんどの生徒が落ち着いた学校生活を送っているということである。
・思いやりの心の育成は学校教育の根幹に関わることであり、さらに取組を推進し、肯定的な回答を増やす必要がある。

6. 将来の夢やつきたい職業など自分の志を話することができる。



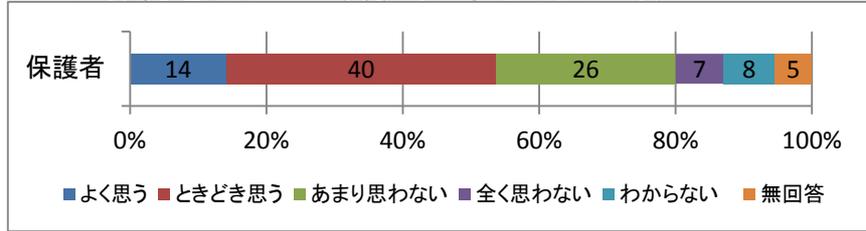
・56%の保護者が肯定的な回答をしているが、生徒の64%よりも低くなっている。将来に夢や希望をもって中学校生活を送れるよう、また、自信と誇りをもって自分の志を話することができるよう、これまで以上に家庭との連携を深め、キャリア教育の一層の充実を図ってきたい。

7. 桃山中に誇りをもっている。



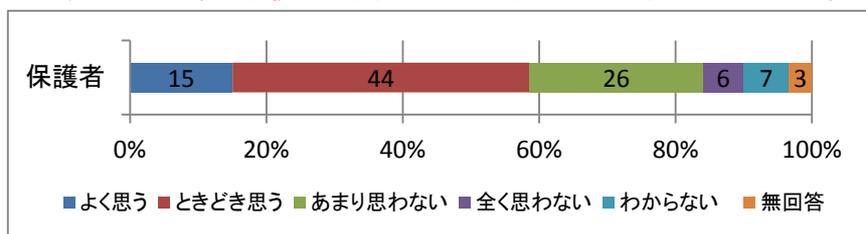
・生徒アンケートでは、79%の生徒が「桃山中に誇りをもっている」と回答しているが、保護者は59%と、生徒よりもかなり低い値となっている。学校教育目標の達成に向け、更なる努力を積み重ねたい。
・学校のさまざまな活動を積極的に発信し、学校評価を的確に生かすことにより、誇りのもてる生徒の育成を目指したい。

8. 9年間を見通した小中一貫教育が推進できている。



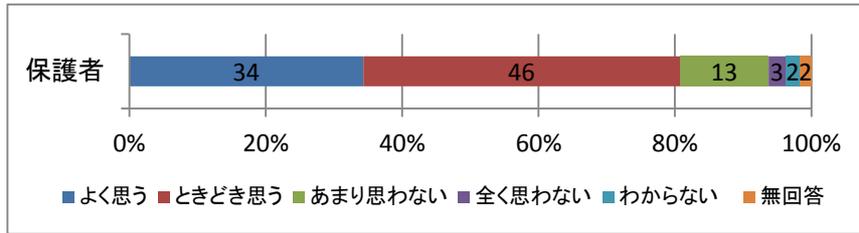
・肯定的な回答が54%で、否定的な回答が33%である。取組の充実と保護者への情報発信、理解の促進が必要と思われる。
・新川、小羽山、両小学校と、児童生徒、教職員間で交流や緊密な連携を図り、さらなる小中一貫教育の充実を図りたい。

9. 地域とともにある学校づくり(コミュニティ・スクール)ができています。



・59%の保護者が思うと回答しているが、「思わない」との回答が32%である。さらなる周知と協働実践が強く望まれる。
・今年度は難しいが、例年、生徒は積極的に地域の祭りや奉仕活動に参加しており、ハッピー桃太郎運動は広まっている。学校支援や地域貢献の場を、より多く設定し、地域とともにある学校の実現を図りたい。

10. たよりやホームページ、メール配信等により、学校の情報が発信されている。



・80%が肯定的な回答をしているが、16%の保護者が否定的な回答をしている。学校からの緊急連絡等を考えると100%を目指す必要がある。

・保護者の方々に興味をもってもらえるような内容を心がけ、家庭と連携を図りながら子どもたちの健全な成長を支援していきたい。